

ミ類 (鞘翅目, オトシブミ科) の寄主植物 (II). 富山市科学文化センター研究報告, (22): 97-113.
吉崎真紀・小澤朗人, 2010. 茶園におけるマダラカサハラハムシ (マダラアラゲサルハムシ) *Demotina fasciculata* Baly

の生活史. 静岡県農林技術研究所研究報告, (3): 19-25.

(2014年11月29日受領, 2015年2月13日受理)

【短報】ニホンケブカサルハムシ (ハムシ科, サルハムシ亜科) の新寄主植物 (追加)

ニホンケブカサルハムシ *Lypsthes japonicus* Ohno, 1958 (ハムシ科, サルハムシ亜科) の寄主植物は, 従来, ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino (ニレ科 Ulmaceae) とヤブツバキ *Camellia japonica* L. (ツバキ科 Theaceae) が知られていた (大野, 1994) が, 筆者は, 新寄主植物としてトウカエデ *Acer buergerianum* Miq., イロハモミジ *A. palmatum* Thunb. (カエデ科 Aceraceae), ソメイヨシノ *Prunus x yedoensis* Matsumura およびカスミサクラ *Prunus verecunda* (Koidz.) Koehne (バラ科 Rosaceae) を報告した (鈴木, 2013). 2014年4月, それら4種の寄主植物を確認した富山県射水市の県民公園太閤山ランド内で, ヒュウガミズキ *Corylopsis pauciflora* Sieb. Et Zucc. (マンサク科 Hamamelidaceae) とコナラ *Quercus serrata* Thunb. ex Murray (ブナ科 Fagaceae) から複数種の成虫を採集したので, 無傷の新鮮な葉と共にバイアルに入れておいたところどちらも好食した. また, 2014年5月, 千葉県市川市国府台のじゅんさい池公園内で, ケヤキの他にオニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) (クルミ科 Juglandaceae) の葉を摂食中の成虫を複数個体観察したので, 本種の新寄主植物として記録しておく.

本種は, 従来知られていたニレ科とツバキ科に加えて, カエデ科, バラ科, マンサク科, ブナ科, クルミ科など7科の植物を利用する比較的多

食性の polyphagous 種であることが明らかになった. こうした多食性の種は, 生息地に潜在的に利用可能な植物が存在していれば常にそれらの全てを利用しているかと言えば, そうとは限らないことに注意すべきである. 特に, サルハムシ科では, 幼虫が土中で根を摂食している種が多く, そうした種の場合は, かなり広範囲の植物を利用していることが少なくないようである (cf. Jolivet & Hawkeswood, 1995; 鈴木ら, 2013). ただし, 野外観察の結果からは, そのような種であっても, 限られた地域では, 成虫は比較的限られた植物種を摂食利用していることが多いと推測される. なお, 上記の太閤山ランドにもヤブツバキが多数植栽されているが, 本種の摂食は, これまでのところ観察したことはない.

引用文献

- Jolivet, P. & T. J. Hawkeswood, 1995. Host-Plants of Chrysomelidae of the World – An Essay about the Relationships between the Leaf-Beetles and their Food-Plants. xiii + 281 pp., Backhuys Publishers, Leiden.
大野正男, 1994. ニホンケブカサルハムシの知見総説. 自然誌研究雑誌 (日本自然誌研究会), (2/3/4): 81-90.
鈴木邦雄, 2013. ニホンケブカサルハムシの新寄主植物. さやばねニューシリーズ, (12): 55.
鈴木邦雄・南 雅之・増岡雄大, 2013. サクラサルハムシ (ハムシ科, サルハムシ亜科) の寄主植物選好性 — 富山県射水市の県民公園「太閤山ランド」における大発生をめぐって —. さやばねニューシリーズ, (12): 38-55.

(鈴木邦雄 939-0364 射水市南太閤山 14-35)